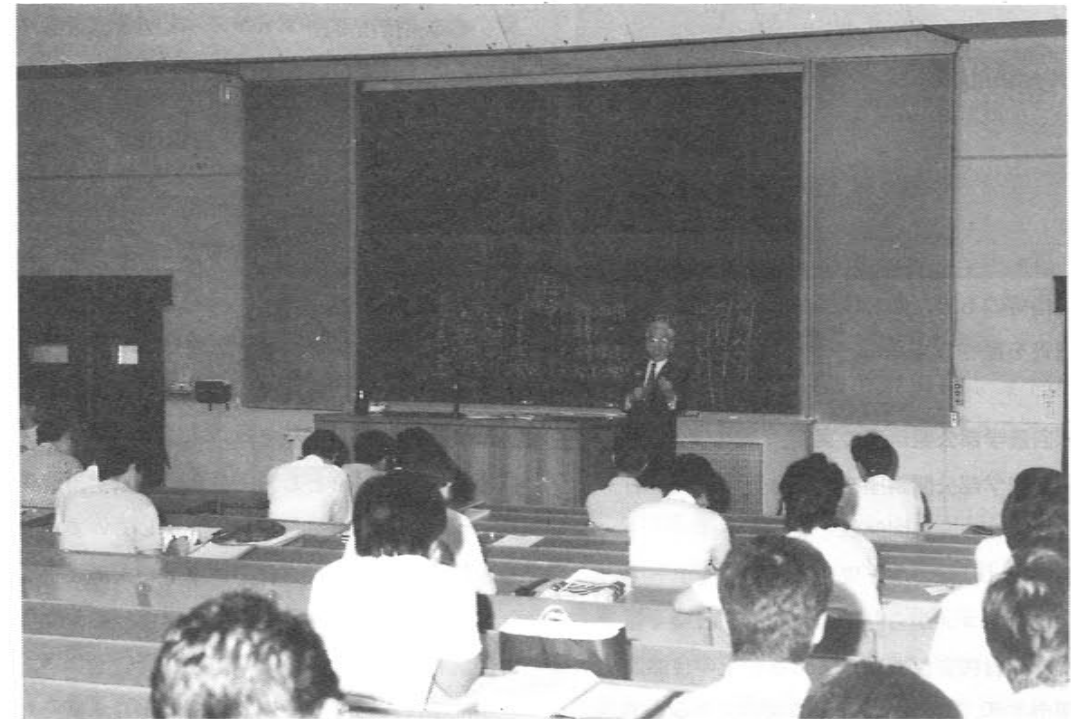


神戸大学学報

No. 407

1990.8 庶務部庶務課発行



《平成2年度社会教育主事講習特別講義》

目	次
◇学内ニュース..... 2	◇学事..... 12
◦神戸大学スポーツ教室（少年サッカー）の実施	◦学位授与
◦等8回農学部公開講座の実施	◦平成3年度入学者選抜方法等の決定
◦第7回医療技術短期大学部公開講座の実施	◦平成元年度神戸大学卒業生の卒業後の状況調 （平成2年5月1日現在）
◦第6回医療技術短期大学部生涯教育講座の実施	◦平成元年度神戸大学卒業生の就職状況調 （産業別）
◦医療技術短期大学部大学説明会の実施	◇掲示板..... 29
◦名誉教授・部局長懇談会の開催	◦職員の住所変更等
◦平成2年度社会教育主事講習の実施	◇日誌..... 29
◦平成2年度公務員レクリエーション共同行事	◇訂正..... 29
◦神戸地区「バレーボール大会」の実施結果	◇神戸大学50年史編集室だより..... 30
◦故西村 昭教授の工学部・大学院自然科学 研究科合同葬の挙行政	
◦計報	
◇学内規則..... 5	
◇人事..... 7	
◦異動 ◦研修等 ◦海外渡航	

学内ニュース

◇神戸大学スポーツ教室（少年サッカー）の実施

神戸大学スポーツ教室（少年サッカー）を7月12日（木）から7月20日（金）までの間、教養部グラウンドにおいて実施しました。

このスポーツ教室は、現代サッカーの知識と基本技術を修得することにより体力の増進と健康維持をはかることを目的として毎年開催されています。

今年度は中学1年生28名の受講者が五島祐治郎教授の指導のもと、熱心に受講し、受講者全員に修了証書を授与しました。

—教養部—

◇第8回農学部公開講座の実施

第8回農学部公開講座を7月9日（月）から7月13日（金）の5日間開講しました。

本講座は「食糧資源と環境の科学」をテーマとして、主食のコメから熱帯の作物、忘れゆく雑穀、動物までの食糧資源問題、また水や土の自然環境から都市生活、ゴルフ場の環境問題に至るまで、本学部教官がそれぞれ専門領域における立場から講義し、さらに醸酵工業と環境では、ビール工場の見学を取り入れるなど好評のうちに閉講しました。

なお、受講者は80名で、10講義中6講義以上を受講した70名に修了証書を授与しました。

—農学部—

◇第7回医療技術短期大学部公開講座の実施

第7回医療技術短期大学部公開講座を6月9日（土）から7月7日（土）の5週間にわたって毎週土曜日に「家庭内の医療 —健康とスポーツ—」をテーマに実施しました。

健康のためのスポーツが、人々の関心を集めている現在において、それぞれに適切なスポーツや身体運動を選ぶことにより、各種疾患・障害の予

防やリハビリテーションに非常に有益であるという観点から実施しました。

学外からも2名の講師を招きストレスや成人病に対するスポーツの効用について講義をいただいたほか、アンケートにより希望の多かった「応急処置」、「花粉アレルギー」を開講し、また、ストレッチの実技指導、パソコンの入門講座を盛り込むことにより変化に富んだ講座となりました。

前半は天候に恵まれなかったものの、熱心な受講者が多く、質疑応答も活発に行われるなど好評のうちに講座は閉講し、受講者56名の内6講義以上を受講された45名に、修了証書を授与しました。

—医療技術短期大学部—

◇第6回医療技術短期大学部生涯教育講座の実施

医療技術短期大学部では、本学の卒業生や医療技術従事者を対象として、最新の医療学術情報をテーマとした講座を毎年夏に開講しています。

本年度は7月8日（日）に本学の大講義室等で、「老化について」をメインテーマとして240名余の受講者を集めて行いました。

午前中は、「心臓循環器系の老化」、「整形外科領域からみた老化」、「脳及び感覚器の老化」について講演を行い、午後は分科会に分れて「超音波検査について」、「片麻痺患者に対するトレーニング」、「老人看護への取り組み」を行いました。

今回、指定規則改正に伴う看護学科カリキュラムの改正により、老人看護学が成人看護学から独立したこともあり、阪神間の医療関係施設のみならず遠く京都、広島からも受講申込みがあり、会場に補助席を設けてもおお収容できないほどの盛況でした。

昼食時や分科会終了後も、恩師に質問をしたり、旧友と情報交換を熱心に行う受講者が多く見られ、活気に満ちた一日となりました。

—医療技術短期大学部—

◇医療技術短期大学部大学説明会の実施

医療技術短期大学部では、7月25日（水）午後1時から医療技術者を志望する高校生（主として3年生）を対象に大学説明会を開催しました。

本学は、医療技術者を養成することを目的としていることから、受験予定者に対してカリキュラムや臨床実習の内容を充分理解させ、卒業後の職業にも確かな計画を持って進路選択を行ってもらうために実施しているもので、今回で3年目になります。

本年度の参加者は進路指導の教諭を含め約230名で、兵庫県下・大阪府下の高校生を中心に、遠くは愛知県、京都府からの参加もありました。

まず、全体説明会では看護・衛生技術・理学療法・作業療法の各学科と一般教育等の概要説明及び大学紹介ビデオ（30分）の上映が行われ、引き続き、学科別説明会では各学科の詳細な説明と実習室等大学施設の見学が行われました。

また、説明会終了後は、本学在学生と参加者との懇談を行いました。

最後に、参加者に対しアンケートを行ったところ、本学教官が製作した大学紹介ビデオが、日頃の学内での授業・実習や、病院等の医療現場で臨床実習に励む学生たちの様子を生き生きと捉えていると好評であったほか、「丁寧な説明で大学での学習内容が良く理解できた」、「医療現場の認識を新たにした」等の感想が多く寄せられました。

—医療技術短期大学部—

◇名誉教授・部局長懇談会の開催

7月13日（金）午後2時から、名誉教授と部局長との懇談会を農学部大会議室において開催しました。

懇談会は、新野学長による新名誉教授紹介に始まり、引き続き学長、事務局長、学生部長による大学の現況報告、法学部長の講話があり、最後に名誉教授の代表の方々から近況が語られました。引き続き、六甲台学舎正門階段において記念撮影

を行い、その後、会場を「海龍」に移して懇談会を行いました。

懇談会では、大河内名誉教授の音頭で乾杯の後、懇談に移り、和やかな雰囲気の中に午後7時に散会しました。



—庶務課—

◇平成2年度社会教育主事講習の実施

6月19日（火）から7月27日（金）までの間、教育学部を主会場として社会教育主事講習を実施しました。

この講習は、社会教育法の規定に基づき都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる社会教育主事となるべき者に、その職務を遂行するために必要な専門知識・技術を修得させ、社会教育主事となり得る資格を附与することを目的として、文部省からの委嘱により実施したものです。

講習の内容は、社会教育科目（4科目、9単位）の講義・演習からなっており、学内外から多数の講師が担当しました。

また、受講者は、兵庫県をはじめ大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県から58名が熱心に受講しました。



—庶務課—

◇平成2年度公務員レクリエーション共同行事 神戸地区「バレーボール大会」の実施結果

神戸地区の官庁職員が相互に親睦を図ることを目的として開催しているレクリエーション行事の1つ「バレーボール大会」において、本学職員Aチームが優勝し、Bチームが第3位になりました。本大会は、本学が世話機関となり教養部体育館において7月27日（金）午前8時30分から午後5時10分まで、9機関11チーム、134名（内女子14名）が参加し、熱戦が繰り広げられました。

なお、順位は次のとおりです。

- | | |
|-----|------------------|
| 優勝 | 神戸大学A |
| 第2位 | 神戸税関 |
| 第3位 | 神戸大学B
兵庫食糧事務所 |



—人事課—

◇故西村昭教授の工学部・大学院自然科学研究科 合同葬の举行

工学部の西村昭教授には、去る5月24日（木）午前1時7分京都大学医学部附属病院にて[REDACTED]のため逝去されました。享年62才でした。先生は、昭和25年3月京都大学工学部助手を経て、同27年4月神戸大学工学部講師、同31年4月同助教授、同40年4月同教授となり、38年余にわたって本学における教育・研究に尽力されました。

工学部及び大学院自然科学研究科では、7月7日（土）午後2時から六甲台講堂において、松本治彌工学部長及び位田正邦自然科学研究科長を葬

儀委員長として、ご遺族・親戚、部局長、名誉教授、学会関係者、教職員、在学生、卒業生等約400名の参列のもとに工学部・大学院自然科学研究科合同葬を厳かに執り行いました。

合同葬は、附属土地造成工学研究施設長川谷健教授の司会により、参列者全員の黙祷、司会者による故人の経歴朗読、葬儀委員長、位田正邦自然科学研究科長、新野幸次郎神戸大学長、竹内良夫土木学会関西支部長、北村泰寿土木工学科主任、瀬川典康学生代表の弔辞、司会者による弔電の披露に続いて、赤井浩一京都大学名誉教授、廣戸敏夫暁木会会長、桜井春輔教授、宮本文穂助教授、飛岡博明門下生から故人を偲ぶ言葉がありました。

最後に、葬儀委員長並びに遺族代表から挨拶があり、午後3時15分に終了しました。



—工学部—

◇訃報



文学部、教務職員 津村佳永子氏には、去る7月2日（月）午前0時30分[REDACTED]のため逝去されました。

享年45歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。同氏は、昭和43年4月文学部に奉職されて以来、教室系職員として教育・研究のために誠心誠意尽力され、また、旺盛な責任感と懇切丁寧な指導は、教職員はもとより学生からもその誠実な人柄で信頼と敬愛を受けられていました。

なお、葬儀は7月4日（水）午前11時から、尼崎市東園田町の県営住宅職員集会所において執り行われました。

御遺族の住所は次のとおりです。

[REDACTED]様
—文学部—

学 内 規 則

◇神戸大学放射線障害防止規則の一部を改正する規則

（平成2年7月12日制定）

改正要点

工学部放射線施設が廃止されたこと。

神戸大学放射線障害防止規則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成2年7月12日

神戸大学長 新 野 幸次郎

神戸大学放射線障害防止規則の一部を改正する規則

神戸大学放射線障害防止規則（平成元年4月20日制定）の一部を次のように改正する。

第3条中第2号を削り、第3号を第2号とし、第4号から第6号までを1号ずつ繰り上げる。

附 則

この規則は、平成2年7月12日から施行し、改正後の神戸大学放射線障害防止規則の規定は、平成2年5月22日から適用する。

◇神戸大学放射性同位元素等管理委員会規則の一部を改正する規則

（平成2年7月12日制定）

改正要点

工学部放射線施設が廃止されたこと。

神戸大学放射性同位元素等管理委員会規則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成2年7月12日

神戸大学長 新 野 幸次郎

神戸大学放射性同位元素等管理委員会規則を改正する規則

神戸大学放射性同位元素等管理委員会規則（昭和62年3月19日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1号中「工学部長」を削る。

附 則

この規則は、平成2年7月12日から施行し、改正後の神戸大学放射性同位元素等管理委員会規則の規定は、平成2年5月22日から適用する。

◇神戸大学六甲台地区放射線障害防止委員会規則の一部を改正する規程

（平成2年7月12日制定）

改正要点

工学部放射線施設が廃止されたこと。

神戸大学六甲台地区放射線障害防止委員会規則の一部を改正する規程を次のように定める。

平成2年7月12日

神戸大学長 新 野 幸次郎

神戸大学六甲台地区放射線障害防止委員会規程の一部を改正する規程

神戸大学六甲台地区放射線障害防止委員会規程（昭和62年8月27日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中第1号を削り、第2号を第1号とし、第3号を第2号とし、第4号を第3号とする。

附 則

この規程は、平成2年7月12日から施行し、改正後の神戸大学六甲台地区放射線障害防止委員会規程の規定は、平成2年5月22日から適用する。

◇神戸大学共同研究開発センター技術者養成研修 規程

(平成2年7月20日制定)

神戸大学共同研究開発センター技術者養成研修 規程

(趣旨)

第1条 この規程は、民間機関等の技術者及び研究者（以下「技術者等」という。）に対し、科学技術の習熟及び情報提供を行い、技術水準の向上を図り、柔軟な思想を持つ人材を育成し、地域産業の発展に寄与することを目的として、神戸大学共同研究開発センター（以下「センター」という。）が開設する技術者養成研修（以下「研修」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(課程)

第2条 研修の課程は、次に掲げるものとし、神戸大学共同研究開発センター規則第8条に規定する神戸大学共同研究開発センター運営委員会の議を経て開設する。

バイオテクノロジーコース

(受講資格)

第3条 研修を受講できる者は、現職の技術者等で、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 高等専門学校、短期大学又は大学を卒業した者
- (2) 前号に相当する者として神戸大学共同研究開発センター長（以下「センター長」という。）が認めたもの

(定員)

第4条 第2条に規定する課程の定員は、次のとおりとする。

バイオテクノロジーコース 15人

(修了)

第5条 研修において所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。

(講習料)

第6条 研修講習料は、研修の申請を受理するときに徴収するものとする。

2 既納の研修講習料は、還付しない。

3 研修講習料の額は、次のとおりとする。

バイオテクノロジーコース 75,800 円

(事務)

第7条 研修に関する事務は、当分の間、農学部事務部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、研修の実施に関し必要な事項は、センター長が定めるものとする。

附 則

この規程は、平成2年7月20日から施行する。

(制定理由)

神戸大学共同研究開発センターにおける技術者養成研修に関し必要な事項を定めるため、制定するものである。



人 事

◇異動

所属部局 官 職	氏 名	発令 月 日	異 動 内 容 (異動前の所属官職)
附属図書館 (医学部) 館	藤 修 子	8. 1	休職(文部事務官)
文 学 部	津 村 佳永子	7. 2	死亡(教務職員)
教育学部 (附 属 校) (住 吉 校)	宮 崎 直 江	7. 28	7月27日限り退職 (臨時用務員)
(附 属 校) (明 石 校)	寄 本 光 司	7. 31	辞職(工務員)
(附 属 校) (養護学校)	白 井 孝 男	7. 16	採用
臨時用務員			
法 学 部	中 野 俊一郎	7. 2	休職(助教授)
理 学 部	伊勢崎 修 弘	8. 1	出向(千葉大学理 学部教授)(助教授)
医 学 部			
助 手	佐 野 公 彦	8. 1	配置換(医学部附 属病院助手)
	五 嶋 良 吉	"	" (")
	伊勢川 裕 二	"	出向(大阪大学微 生物病研究所助手) (助手)
	高 橋 利 和	7. 31	辞職(助手)
文 部 技 官	白 石 一 成	7. 16	採用
事務補佐員	角 杉 真由美	"	"
(附属医学 研究国際 交流セン ター)	置 村 康 彦	7. 12	休職(助手)

医 学 部 附 属 病 院	助 手	森 田 須美春	8. 1	転任(国立加古川 病院第二内科医長)
	"	小 坂 嘉 之	"	採用
第 一 外 科 外 来 医 長		山 本 正 博	7. 16	命(講師)
講 師		加 藤 道 男	"	免(第一外科外来 医長)
(中央手術部)				
事務補佐員		荒 木 典 子	7. 16	採用
(薬 剤 部)				
		平 井 みどり	8. 1	出向(京都大学医 学部附属病院助手) (薬剤師)
(看 護 部)				
助 産 婦		長 里 理 子	8. 1	臨時的任用
		井 上 弥 生	7. 24	育児休業(助産婦)
(事 務 部)				
(医 事 課)				
文部事務官		関 幸 代	7. 16	配置換(中央手術 部文部事務官)
調 理 員		河 西 達 雄	8. 1	採用
工 学 部				
助 教 授		安 田 一 則	8. 1	昇任(助手)
事務補佐員		猪 多 絵 美	"	採用
		辻 村 あかね	7. 30	辞職(事務補佐員)
教 養 部				
講 師		櫻 井 徹	8. 1	採用

◇研修等

※第2回近畿地区JST アドバンスコース指導者養成研修

期 間 平成2年7月3日～7月6日

会 場 大阪合同庁舎第2号館

主 催 人事院近畿事務局

参加者 庶務部庶務課課長補佐

堺 貞 夫

＊平成2年度兵庫県下国立学校等人事事務研修

期 間 平成2年7月23日～7月26日

会 場 自然科学系図書館

共 催 兵庫県下国立学校等

当番校 神戸大学

参加者 庶務部庶務課大学院総務掛

岸 本 博 文

〃 人事課任用掛

田 村 優

〃 〃 川 端 清 文

法学部庶務掛 保 井 広 基

経済学部庶務掛 山 田 淳 一

経営学部庶務掛 豊 島 美恵子

医学部人事掛 小 田 伸 治

工学部庶務掛 木 澤 高

教養部庶務掛 高 尾 育 子

医学部附属病院総務課人事掛

中 田 勉

〃 職員掛

小 林 均

農学部附属農場総務掛

和 田 健 志



—人事課—

◇海外渡航

所 属	職 名	氏 名	渡 航 先	渡 航 目 的	渡航期間	備 考
文 学 部	教 授	柴谷 方良	スペイン	国際語用論会議出席及び言語学に関する資料収集のため	2.7.7 2.7.16	出張
〃	〃	池上 忠治	デンマーク, ノルウェー スウェーデン 連合王国	スカンディナヴィア 近代美術の調査及び資料収集のため	2.7.11 2.7.26	研修
〃	〃	柴谷 方良	アメリカ合衆国	言語類型論研究のため	2.7.19 2.9.1	〃
〃	〃	山田 敬三	中華人民共和国	二十世紀中国小説史国際学術討論会出席及び中国文学に関する資料収集のため	2.7.29 2.8.7	〃
教育学部	助教授	永岡 慶三	オーストラリア	WCCE'90(第5回教育におけるコンピュータ世界会議)出席のため	2.7.8 2.7.16	〃
〃	教 授	西垣 勤	中華人民共和国	中国文学学術会議出席及び中国人日本文学研究者との研究交流のため	2.7.29 2.8.19	〃
〃	教 諭 (附 属 小 学 校)	山下 准史	オーストラリア	オーストラリアにおける教育制度及び教育事情等の調査のため	2.7.30 2.8.8	〃
〃	〃	加地 信裕	〃	〃	〃	〃
〃	〃	上本 准司	〃	〃	〃	〃
〃	〃	大野 勉	〃	〃	〃	〃

教育学部	教 頭 (附 属 中 学 校)	住本 吉章	オーストラリア	オーストラリアにおける教育制度及び教育事情等の調査のため	2.7.30 2.8.8	研 修
〃	教 頭 (附 属 小 学 校)	笹辺 寿夫	〃	〃	〃	〃
法 学 部	助教授	アレキサンダー, ロニー パレット	〃	アジア・太平洋学会出席及び太平洋地域における軍縮, 安全保障に関する資料収集のため	2.7.2 2.7.16	〃
〃	〃	小泉 直樹	アメリカ合衆国	日米両国の無体財産法の比較法的研究	2.7.11 3.7.10	〃
〃	教 授	宮澤 節生	スペイン	国際法社会学会出席のため	2.7.12 2.7.20	〃
〃	助教授	佐伯 仁志	アメリカ合衆国	海外における組織犯罪対策に関する調査研究及び刑事法の調査研究のため	2.7.15 2.7.29	出張
〃	教 授	木戸 蒔	連合王国	ソ連東欧研究第4回世界大会出席並びにシェフィールド大学との大学間学部間協力協定についての打合せのため	2.7.19 2.7.31	研 修
経済学部	助 手	奥西 孝至	ベルギー スペイン	第10回国際経済史学会出席及び発表 第17回国際歴史学会出席並びに15世紀ベルギー価格及び政策に関する資料収集のため	2.7.19 2.9.9	〃
経営学部	教 授	武田 隆二	ドイツ連邦共和国 連合王国	租税及び企業会計制度等に関する調査並びに資料収集	2.7.10 2.7.19	〃
〃	〃	天野 明弘	アメリカ合衆国	第11回日米通貨経済会議出席及び貿易論に関する資料収集	2.7.22 2.7.26	〃
理 学 部	助 手	太田 仁	アメリカ合衆国 ドイツ連邦共和国 ベルギー	自由電子レーザーを用いた遠赤外領域における物性の研究及び遠赤外分光による磁性体の研究交換のため	2.7.1 3.4.30	出張
〃	〃	乙藤洋一郎	グリーンランド	グリーンランドのゴッドホープ周辺に分布する始生代の岩石の地球科学的調査及び研究打合せのため	2.7.3 2.8.16	研 修
〃	教 授	磯野 克己	オランダ	第15回「酵母遺伝学・分子生物学」国際会議出席及び第2回ヨーロッパネットワーク会議「酵母の第3染色体のシーケンシング」出席並びに酵母染色体に関する研究打合せのため	2.7.22 2.7.31	〃
医 学 部	助教授	船原 芳範	タイ	タイにおけるサラセミア症及びその他の血液異常疾患の研究のため	2.7.9 2.7.29	出張
〃	教 授	守殿 貞夫	カナダ アメリカ合衆国	第3回国際ニューキノロン・シンポジウム出席及び泌尿器科学に関する研究交換のため	2.7.11 2.7.19	研 修
〃	講 師	内山 三郎	アメリカ合衆国	地域精神保健に関する研究交換のため	2.7.15 2.8.11	〃
〃	教 授 (医学部長)	本間 守男	インドネシア	大型共同研究実施に係る現地調査及び協議のため	2.7.16 2.7.20	出張

医学部	教授	徳久 剛史	タイ	国際腎臓病学会参加及び共同研究に関する討議のため	2.7.22 2.7.25	出張
"	文部事務官 専門職員	小谷 壽之	"	医学分野における交流計画に関する打合せのため	"	"
"	教授	河野 通雄	インドネシア シンガポール	画像診断学に関する研究・講演並びに研究情報交換のため	2.7.26 2.8.2	"
医学部 附属病院	助手	竹内 素志	連合王国	ケンブリッジカンファレンス出席のため	2.7.18 2.7.24	研修
"	"	山崎 克人	インドネシア シンガポール	画像診断学に関する研究・講演並びに研究情報交換のため	2.7.26 2.8.2	出張
工学部	教授	西 勝	ノルウェー スウェーデン フィンランド	第3回道路、飛行場の支持力に関する国際会議出席及び橋、海底トンネル、地下構造物、舗装構造に関する資料収集	2.7.1 2.7.15	研修
"	"	森脇 俊道	インドネシア オーストラリア 台湾	「自動化技術に関する国際会議」及び生産技術に関する国際会議出席並びに生産工学に関する研究交換	2.7.3 2.7.16	出張
"	"	峯本 工	アメリカ合衆国	光学・光学電子応用科学工学に関するSPIE'S1990 国際シンポジウム出席及び光センシング技術に関する研究交換	2.7.4 2.7.15	研修
"	"	中前 勝彦	アメリカ合衆国 カナダ	IUPAC 国際シンポジウム出席並びに高分子界面化学に関する研究交換	2.7.8 2.7.19	出張
"	助教授	中島 正愛	アメリカ合衆国	ハイブリッド耐震実験システムの開発に関する共同研究及び研究交換	2.7.8 2.8.31	"
"	"	吉村 武晃	"	光学・光学電子応用科学工学に関するSPIE'S1990 国際シンポジウム出席及び散乱・吸収過程を用いる計測技術の逆問題に関する調査研究	2.7.9 2.7.23	"
"	"	中岡 睦雄	連合王国	第4回パワーエレクトロニクスと可変速ドライブに関する国際会議出席及びパワーエレクトロニクスに関する研究交換	2.7.12 2.7.23	"
"	教授	金谷 弘	カナダ アメリカ合衆国	IIW 年次大会及び鋼管構造に関するワークショップ出席並びに鋼構造に関する資料収集	2.7.14 2.7.30	"
"	"	北村 新三	"	散乱・吸収過程を用いる計測技術の逆問題に関する調査研究及びロボット工学と生産に関する第3回国際シンポジウム出席	2.7.14 2.7.23	"
"	"	片岡 邦夫	連合王国 カナダ	伝熱における高度計算法の第1回国際会議出席並びに伝熱計算法に関する研究調査	2.7.14 2.7.26	研修
"	助教授	田淵 基嗣	カナダ アメリカ合衆国	IIW 年次大会及び鋼管構造に関するワークショップ出席並びに鋼構造に関する資料収集	2.7.14 2.7.30	"
"	"	猪飼 靖	アメリカ合衆国	国際学会FATIGUE90出席及び疲労寿命評価に関する研究交換	2.7.15 2.7.21	"

工学部	助教授	吉田虔太郎	フランス、スイス アメリカ合衆国	「国際結晶学会議」「物理的超空間と準結晶構造に関する会議」及び「第12回国際電子顕微鏡学会議」出席並びに準結晶に関する研究交換	2.7.18 2.8.22	研修
"	"	沖村 孝	インドネシア	土地利用図、地形図学、防災及び砂防に関する資料収集	2.7.21 2.7.28	"
"	講師	森山 正和	"	"	"	"
"	助教授	葛原 道久	大韓民国	小昆虫のホバリング飛行メカニズムを用いる船舶推進に関するセミナー出席及び流体力学並びに流体機械に関する研究交換	2.7.23 2.7.31	出張
"	教授	村上 温夫	アメリカ合衆国 カナダ	関数解析学及び知能情報科学に関する研究交換	2.7.25 2.8.4	"
"	助手	鉾井 修一	カナダ、オランダ	間欠空調時の室温・熱負荷の確率性に関する研究及び建物内のエネルギー・水分・気候に関する国際シンポジウム出席	2.7.25 3.8.5	研修
"	教授	山本 恵一	ギリシャ	第5回電子光学的微細構造とマイクロデバイスの物理に関する国際会議及び第20回半導体物理に関する国際会議出席並びに超微粒子と薄膜に関する研究交換	2.7.28 2.8.13	出張
"	"	西野 種夫	フィンランド ギリシャ	第20回半導体物理に関する国際会議出席及び半導体物理と電子工学に関する研究交換	2.7.31 2.8.14	"
農学部	"	加藤征史郎	フランス	中国豚シンポジウム出席及び第41回ヨーロッパ畜産学会出席・講演のため	2.7.2 2.7.14	研修
教養部	助教授	田窪 行則	オーストラリア	豪州アジア学会第8回大会に於いて論文発表及び言語学に関する資料収集のため	2.7.1 2.7.8	"
"	"	菱川 英一	オーストラリア、イタリア、フランス、ポルトガル、連合王国 アイルランド	パウンドに関する国際セミナー出席及びパウンド、イエイツに関する資料収集のため	2.7.3 2.8.22	"
"	教授	大野 道邦	スペイン フランス ドイツ連邦共和国	第12回世界社会学会議 (ISA) 参加及びデュルケム社会学に関する資料調査・理論研究	2.7.7 2.8.6	出張
"	講師	藤野 一夫	ドイツ連邦共和国 ハンガリー	フライブルク大学及びマンハイム大学に於いてドイツ語とドイツ文化のための国際夏期講習会参加並びにドイツ観念論生成期の諸問題に関する資料収集のため	2.7.13 2.10.4	研修
"	助教授	鍋木 誠	アメリカ合衆国	クラスター変分法 (CVM)、経路確率法 (PPM) の基礎及び応用の研究	2.7.20 2.8.20	出張
"	教授	安井 三吉	中華人民共和国 マカオ、香港	「孫中山とアジア」国際学術討論会、「近百年來の中日関係」国際シンポジウム出席並びに中国近現代史に関する資料収集のため	2.7.29 2.8.14	研修
"	"	柏木 俊和	連合王国	ウィリアム・ブレイクの詩と絵画の研究及びイギリスロマン主義関係の資料収集並びにブレイク研究会に参加のため	2.7.31 2.9.9	出張

実施学部・学科名	経済学部
募集人員	入学定員の約20% (約50人)
選抜期日 選抜方法	高等学校長の推薦に基づき、推薦書・調査書及び志望動機書の内容、大学入試センター試験の成績、健康診断の結果を総合して入学者の選抜を行う。 個別学力検査等は免除する。
出願期間	平成2年12月20日(木)から平成2年12月27日(木)まで。(締切当日の消印有効)
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を平成2年3月卒業又は平成3年3月卒業見込みの者で次の各号に該当し、学力のみならず人物、能力、資質等において特に優れ、高等学校長が責任をもって推薦する者。 (1) 調査書の評定平均値の平均が4.0以上の者 (2) 平成3年度大学入試センター試験の5教科を受験する者 (3) 合格した場合、必ず入学することを確約できる者 2 推薦人員 各高等学校から推薦できる者は、1校当たり2名以内とする。
その他	1 合格発表 平成3年2月8日(金) 午後1時 2 学生募集要項請求方法 募集要項 (平成2年11月下旬発表予定) は、経済学部学生掛 (〒657 神戸市灘区六甲台町2-1) において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手360円を貼付した返信用封筒 (角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm) を同封して請求すること。 3 その他 推薦入学出願以外に二つの大学・学部等に推薦するときは、そのうちの一つは、本学経済学部の前期又は後期日程に出願しなければならない。 なお、その際は改めて出願手続を行うこと。

特別選抜方法 (帰国子女特別選抜)

実施学部・学科名	経済学部										
募集人員	若干名										
選抜期日 選抜方法	入学者選抜は、第1次選考、第2次選考及び健康診断により行う。 (1) 第1次選考 出願書類を資料として、選考を行う。 選考の結果は、平成2年11月26日(月)午前10時に神戸大学正門内側の経済学部掲示場に掲示するとともに、郵送により志願者全員に通知する。 (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対し、基礎的学力と日本語の熟達度を判定するために、次のとおり筆記試験及び面接を行う。なお、1時間限りの英語の筆記試験は、TOEFLを受験していない者についてのみ行う。 <table border="1"> <tr> <th>期 日</th> <th>筆記試験及び面接</th> <th>時 間</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">平成3年1月7日(月)</td> <td>英 語</td> <td>9:30~10:30</td> </tr> <tr> <td>小論文(日本語)</td> <td>10:40~11:40</td> </tr> <tr> <td>面 接</td> <td>13:00~</td> </tr> </table> (注) 面接において数学の簡単なテストを行うことがある。 (3) 健康診断 健康診断書により行う。なお、第1次選考合格者で精密検査を必要と認められた者に対しては、別途通知する。	期 日	筆記試験及び面接	時 間	平成3年1月7日(月)	英 語	9:30~10:30	小論文(日本語)	10:40~11:40	面 接	13:00~
期 日	筆記試験及び面接	時 間									
平成3年1月7日(月)	英 語	9:30~10:30									
	小論文(日本語)	10:40~11:40									
	面 接	13:00~									
出願期間	平成2年10月29日(月)から平成2年11月9日(金)午後5時までまでに必着のこと。										
出願要件	日本国籍を有し、次のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程 (日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。) を平成元年4月1日から平成3年3月31日まで卒業 (修了) した者及び卒業 (修了) 見込みの者。ただし、外国において、最終学年を含めて3年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 中学校・高等学校又は中学校・高等学校相当課程を通じ3年以上外国の学校で教育を受け、日本の高等学校在籍が1年以上であり、かつ、平成2年4月1日から平成3年3月31日まで日本又は外国の高等学校 (又は高等学校相当課程) を卒業 (修了) した者及び卒業 (修了) 見込みの者。 (3) 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成元年度及び平成2年度に授与された者で、平成3年3月31日までに18才に達する者。 (注1) 大学入学資格に13年の課程を必要とする国の場合には、13年課程を卒業 (修了) した者及び卒業 (修了) 見込みの者についてのみ受験を認める。 (注2) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。										
その他	1 合格者発表 平成3年1月18日(金)午前10時に神戸大学正門内側の経済学部掲示場に合格者名を掲示するとともに、第2次選考受験者全員に選考結果を郵送により通知する。 2 学生募集要項請求方法 募集要項 (平成2年7月下旬発表予定) は、経済学部学生掛 (〒657 神戸市灘区六甲台町2-1) において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「経済学部外国学校出身者学生募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手260円を貼付した返信用封筒 (角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm) を同封して請求すること。 ただし、受信者が外国に居住する場合には、航空郵便書状130g 料金相当の国際郵便を同封のこと。										

実施学部・学科名	法学部・経済学部・経営学部各第二課程
募集人員	各学部とも入学定員の約30%
選抜期日 選抜方法	入学者選抜は、推薦書、調査書等によるほか簡単な英語のテスト及び面接により行う。 期 日 平成3年1月9日(水)
出願期間	平成2年12月20日(木)から平成2年12月26日(水)まで。(締切当日の消印有効)
出願要件	1 推薦の要件 高等学校を卒業した者及び平成3年3月卒業見込みの者で調査書の学習成績概評がAであり、本学第二課程入学を第一志望とし、かつ、在学中定職に就き勉学する者に限る。 2 推薦人員 各学部とも1校当たり3名以内とする。
その他	1 合格発表 平成3年1月17日(木) 午後1時 (予定) 2 学生募集要項請求方法 募集要項 (平成2年11月下旬発表予定) は、各学部第二課程掛 (〒657 神戸市灘区六甲台町2-1) において交付する。 郵便により請求する場合は、封筒に必ず「〇〇学部第二課程推薦入学募集要項請求」と朱書きし、受信者の住所、氏名、郵便番号を明記のうえ、郵便切手250円を貼付した返信用封筒 (角型3号、幅21.6cm×長さ27.7cm) を同封して請求すること。 3 その他 推薦入学志願者で、推薦による入学者選抜の結果不合格になった者は、本学第二課程の一般選抜に出願することができる。この場合、大学入試センター試験の5教科 (法学部第二課程は4教科) を受験していなければならない。 なお、一般選抜の出願を希望する者は、改めて出願手続を行うこと。

実施学部・学科名	経営学部
募集人員	若 干 名
選抜期日 選抜方法	入学者選抜は、第1次選考、第2次選考及び健康診断により行う。 (1) 第1次選考 出願書類を資料として用い、選考を行う。 選考の結果は、平成2年12月17日(月)午前10時に神戸大学経営学部掲示場に発表するとともに志願者全員に可否を通知する。 (2) 第2次選考 第1次選考の合格者に対し、英語及び面接を課して選考を行う。 期 日 平成3年1月7日(月) (3) 健康診断 健康診断書により行う。その結果、第1次選考合格者で精密検査を必要と認められた者に対しては、別途通知する。
出願期間	平成2年10月29日(月)から平成2年11月9日(金)午後5時までまでに必着のこと。
出願要件	日本国籍を有する者で、両親等保護者の海外における就業によって、共に外国に在留し、次のいずれかに該当する者。 (1) 外国において、学校教育における12年の課程 (日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。) を平成元年4月1日から平成3年3月31日まで卒業 (修了) した者及び卒業 (修了) 見込みの者。 ただし、外国において、最終学年を含めて2年以上継続して学校教育を受けていること。 (2) 外国において、スイス民法典に基づき財団法人である国際バカロレア事務局から、国際バカロレア資格証書を平成元年度及び平成2年度に授与された者で、平成3年3月31日までに18才に達する者。 (注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとみなさない。
その他	1 合格者発表 平成3年1月18日(金) 2 学生募集要項請求方法 募集要項 (平成2年7月下旬発表予定) は、経営学部教務学生掛 (〒657 神戸市灘区六甲台町2-1) で交付する。 郵便で請求する場合は、封筒の表に「帰国子女特別選抜募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒 (角型3号 (27.7cm×21.6cm) に郵便番号、住所、氏名を明記し、175円切手を貼付) を同封すること。 ただし、志願者が外国に居住する場合は、必ず国内の連絡者を通じて請求すること。

大学入試センター試験及び個別学力検査等における教科・科目
【前 期 日 程】

入学志願者に解答させる 教科・科目名等		利用する 選抜の対象	大学入試センター試験の 教科・科目	個別学力検査 等の教科・科目等	大学入試センター 試験の利用方法等	その他
文 学 部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 (家政科) 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程 中学校教員養成課程 (国語科・英語科・社会科)	一般選抜の 全部	国 社 (倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。 数 (「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」 指定を受けた専修学校高等課程の学科の修 了 (見込み) 者は「数Ⅱ」にかえて「簿記 会計」か「工業教理」を選択できる。 理 (物、化、生、地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 外 (英、独、仏から1)	国 (国語Ⅰ、国語Ⅱ) 数 (代数・幾何、基礎解析) 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1] 国 [国語Ⅰ (漢文を除く)、国語Ⅱ (漢 文を除く)] 数 (代数・幾何、基礎解析) 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1] 数 (代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 理 (物、化、生、地学から2) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出 題範囲とする。 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1] 数 (代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 理 (物、化) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出 題範囲とする。 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1]	「大学入試セン ター試験及び個 別学力検査等の 教科別配点」 を参照すること。	個別学力検査等 の出題方法について
	教育学部			国語：2科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。 数 学：2科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、 同一時間内に解答させる。		
	法学部					
	経済学部					
理 工 部	小学校教員養成課程 中学校教員養成課程 (家政科) 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程 中学校教員養成課程 (数学科・理科・技術科)	一般選抜の 全部	国 社 (倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。 数 (「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」 指定を受けた専修学校高等課程の学科の修 了 (見込み) 者は「数Ⅱ」にかえて「簿記 会計」か「工業教理」を選択できる。 理 (物、化、生、地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 外 (英、独、仏から1)	国 (国語Ⅰ、国語Ⅱ) 数 (代数・幾何、基礎解析) 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1] 国 [国語Ⅰ (漢文を除く)、国語Ⅱ (漢 文を除く)] 数 (代数・幾何、基礎解析) 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1] 数 (代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 理 (物、化、生、地学から2) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出 題範囲とする。 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1] 数 (代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。 理 (物、化) 「理科Ⅰ」に含まれる当該科目の内容をも出 題範囲とする。 外 [英 (英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)、独、 仏から1]	「大学入試セン ター試験及び個 別学力検査等の 教科別配点」 を参照すること。	個別学力検査等 の出題方法について
	教育学部			国語：英語は、3科目合わせて出題し、 同一時間内に解答させる。		
	医学部					
	農学部					

＜注 意＞ 備考を参照すること。

【A 日 程】

利用する学部 (学科、課程、専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	利用する 選抜の対象	大学入試センター試験の 教科・科目	個 別 学 力 検 査 等 の 教 科 ・ 科 目 等	大学入試センター 試験の利用方法等	そ の 他	
教育学部	中学校教員養成課程 (音楽科・美術科・体育科)		一般選抜の 全部	国 社 (倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	実技検査		個別学力検査等の出題方法について ・ 志望する科の実技検査を受験すること。 ・ 実技検査の内容については、別掲の実技検査の内容を参照すること。	
				数 (「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業教理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了 (見込み) 者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業教理」を選択できる。				
	経済学部 第二課程			理 (物、化、生、地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にかえて「理科Ⅰ」を選択できる。	個別学力検査等は課さない	「大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科別配点」を参照すること。		
	経営学部 第二課程			外 (英、独、仏から1)				
法学部	第二課程		一般選抜の 全部	国 社 (倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み) 者以外の者は上記の科目にかえて「現代社会」を選択できる。	個別学力検査等は課さない			
				数 (「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」「工業教理」を修得した者又は文部大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科の修了 (見込み) 者は「数Ⅱ」にかえて「簿記会計」か「工業教理」を選択できる。				
	第二課程							
	第二課程							

＜注 意＞ 備考を参照すること。

【後期日程】

利用する学部 (学科、課程、専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	利用する 選抜の対象	大学入試センター試験の 教科・科目	個別学力検査 等の教科・科目等	大学入試センター 試験の利用方法等	その他の
文学部		部		国 社(倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。	小論文 外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]		個別学力検査等の出題方法について ・小論文の内容については、別冊の小論文 の内容を参照すること。 外国語：英語は、3科目合わせて出題し、 同一時間内に解答させる。
教育学部	小学校教員養成課程 (国語科・技術科・家政科) 中学校教員養成課程 (国語科・家政科) 養護学校教員養成課程 幼稚園教員養成課程	部		数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」 「工業教習」を修得した者又は文部大臣の 指定を受けた専修学校高等課程の学科の修 了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記 会計」か「工業教習」を選択できる。	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について ・小論文の内容については、別冊の小論文 の内容を参照すること。
医学部		部		理(物、化、生、地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。	外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
教育学部	中学校教員養成課程 (数学科・理科)	部	一般選抜の 全部	外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析) ③数学受験コース ④英語受験コース 外[英(英Ⅱ、英ⅡB、英ⅡC)]	「大学入試セン ター試験及び個 別学力検査等の 教科別配点」 を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
経済学部		部		外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：2科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
経営学部		部		外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：2科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
工学部	建築系 土木系 電気系 機械系 化学系 計測系 工業系 システム工学 化学工学	系		外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
農学部		部		外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。

<注 意> 備考を参照すること。

【後期日程】

利用する学部 (学科、課程、専攻等)名		入学志願者に解答させる 教科・科目名等	利用する 選抜の対象	大学入試センター試験の 教科・科目	個別学力検査 等の教科・科目等	大学入試センター 試験の利用方法等	その他の
工学部	機械系	系		国 社(倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
工学部	機械系	系		数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」 「工業教習」を修得した者又は文部大臣の 指定を受けた専修学校高等課程の学科の修 了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記 会計」か「工業教習」を選択できる。	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
工学部	機械系	系		理(「物」と「化」) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み)者以外の者は「化学」にかえ て「理科Ⅰ」を選択できる。	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。	「大学入試セン ター試験及び個 別学力検査等の 教科別配点」 を参照すること。	個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
工学部	機械系	系	一般選抜の 全部	数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」 「工業教習」を修得した者又は文部大臣の 指定を受けた専修学校高等課程の学科の修 了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記 会計」か「工業教習」を選択できる。	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
工学部	機械系	系		理(物、化、生、地学から2) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業 (見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。
工学部	機械系	系		外(英、独、仏から1)	数(代数・幾何、基礎解析、微分・積 分、確率・統計) 「確率・統計」のうち「資料の整理」、「確 率分布」及び「統計的な推測」は除外する。		個別学力検査等の出題方法について 数 学：4科目合わせて出題し、同一時間 内に解答させる。

<注 意> 備考を参照すること。

【推薦入学】

利用する学部 (学科、課程、専攻等)名	入学志願者に附加させる 教科・科目名等	利用する 選抜の対象	大学入試センター試験の 教科・科目	個別学力検査 等の教科・科目等	大学入試センター 試験の利用方法等	その他の
経済学部		推薦入学	国 社(倫、日、世、地理から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「現代社会」を選択できる。 数(「数Ⅰ」と「数Ⅱ」) ただし、高等学校において「簿記会計」 「工業教習」を修得した者又は文部大臣の 指定を受けた専修学校高等課程の学科の修 了(見込み)者は「数Ⅱ」にかえて「簿記 会計」か「工業教習」を選択できる。 理(物、化、生、地学から1) ただし、高等学校の普通科・理数科の卒業(見込み)者以外の者は上記の科目にか えて「理科Ⅰ」を選択できる。 外(英、独、仏から1)	個別学力検査等は課さない		

- 備考 1. 大学入試センター試験の「理科」で必要とする科目数を超えて受験した場合の取扱いについて
ア、後期日程の工学部(機械系)は、指定された2科目の成績を用いる。
イ、後期日程の理学部は、高得点順に2科目の成績を用いる。
ウ、上記ア・イ以外は、高得点の科目の成績を用いる。
2. 前期日程の教育学部の小学校教員養成課程、中学校教員養成課程(家政科)、養護学校教員養成課程又は幼稚園教員養成課程を志願する者は、文科系又は理科系のいずれかの教科・科目を選択受験しなければならない。

3. 前期日程の経営学部は、入学後選抜の際、次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。
- ① 大学入試センター試験の5教科(国語・社会・数学・理科・外国語)の総合点(大学入試センターの配点による)の高得点者〔前期日程募集人員の約30%〕
- ② 個別学力検査の3教科(国語・数学・外国語)の総合点の高得点者〔前期日程募集人員の約30%〕
4. 後期日程の経営学部を志願する者は、数学受験コース又は英語受験コースのいずれかの教科・科目を選択受験しなければならない。

a 実技検査の内容

音楽科

- 共通に次の検査を行う。
 - 新曲視唱(コルユープンゲン第1巻終了程度)。
 - 単旋律の暗音書き取り。
 - 声楽実技。次の5曲のうちから1曲を選び原語かつ暗譜で歌うこと。
 - AmarilliCaccini, G. (a-moll, g-moll, f-moll)
 - Sento nel core.....Scarlatti, A. (g-moll, f-moll, es-moll)
 - Caro laccioGasparini, F. (Es-dur, Des-dur)
 - 旅辺の歌成田 為三 (As-dur, F-dur)
 - ゆりかご平井 康三郎 (E-dur, D-dur)
 (上記以外の調で歌う場合は、移調した楽譜を提出すること。)
- 次のA) B) C)のうちから1つを選択すること。
 - 声楽を主とするもの
 - 各自任意の声楽曲を選び、原語かつ暗譜で歌うこと。
 - ソナチネ程度以上のピアノ曲を演奏すること。
 - ピアノを主とするもの
 - Bachの Wohltemperiertes Klavier (平均律ピアノ曲集) から Fuga のみ1曲を選んで演奏すること。
 - Beethovenの Sonaten Album のうち1曲を選んで、第一楽章又は終楽章を演奏すること。ただし、Op. 27, No. 2 (Moonlight) の第一楽章は除く。
 - 作曲を主とするもの
 - 初見視奏 当日与えられた楽曲を演奏すること。
 - 次の3曲のうちから1曲を選び、演奏すること。
 - Schubert : Impromptu Op. 90-3 Ges-dur (即興曲 作品90-3 変ト長調)
 - Brahms : Drei Intermezzi Op. 117-1 Es-dur (間奏曲 作品117-1 変ホ長調)
 - Tschaikowsky : Die Jahreszeiten Op. 37a Oktober-Herbstlied d-moll (四季より十月 一秋の歌 = 短調)

以上A)のb)、B)のa)、C)のb)は暗譜で演奏し、くり返しはしないこと。

美術科

- 平面による表現 約3時間
 - 立体による表現 約3時間
- 鉛筆や水彩画具に関しては、各自持参すること。

体育科

- 次の各系列について技能検査を実施する。
 - 男子.....体操・器械運動、陸上競技、球技
 - 女子.....体操・器械運動、陸上競技、球技、ダンス
- 基礎体力を検査する。
実技に必要な服装(靴は屋外用・屋内用の2種、スパイクシューズ不可)を各自で用意すること。

b 小論文の内容

文学部

- 文学部の勉学に必要な理解力・思考力・表現力を試す問題を課する。
- 解答時間及び配点 2時間 200点

教育学部

- 論文
資料を与えて論述させる。
2時間30分 200点(ただし、中学校教員養成課程技術科は100点とする。)
- 試験の狙い
理解力、思考力、表現力等を問う。

法学部

- 論文Ⅰ
資料を与えて論述させる。
(800字～1000字程度)
論文Ⅱ
文献を読ませて要約させる。
(500字程度)
- 解答時間及び配点

・論文Ⅰ	2時間30分	120点
・論文Ⅱ	2時間	80点
- 試験の狙い
理解力、思考力、表現力を問う。
出題には英文が含まれる。従って英和辞典を持参のこと。

医学部

- 総合筆記試験：和文又は英文の問題を与えて、論述又は他の形式で解答させる。
- 解答時間及び配点：3時間 400点
- 試験の狙い：理解力、解析力、社会性、論理性、総合学力など、医師となるための適性を見る。

日程	前期			後期			A			B		
	日			日			日			日		
学部等	教育学部			教育学部			教育学部			教育学部		
	小学校教員養成課程			中学校教員養成課程			中学校教員養成課程			中学校教員養成課程		
	養護学校教員養成課程			国語科			国語科			国語科		
	幼稚園教員養成課程			英語科			英語科			英語科		
教科	文学部			経済学部			経済学部			経済学部		
	センター試験			個別学力検査			センター試験			個別学力検査		
	100			100			100			100		
	100			100			100			100		
国語	100			100			100			100		
社会	100			100			100			100		
数学	75			75			75			75		
理科	75			75			75			75		
外国語	100			100			100			100		
小論文												
実技												
計	450			450			450			450		
合計	800			800			800			800		

備考 1. 推薦入学については、表記の教科別配点を適用しない。
2. 経営学部（前期日程）の入学選抜の際、次の者についてそれぞれ優先的に取扱う。
① 大学入試センター試験の5教科（国語・社会・数学・理科・外国語）の総合点の高得点者 [前期日程募集人員の約30%]
② 個別学力検査の3教科（国語・数学・外国語）の総合点の高得点者 [前期日程募集人員の約30%]

なお、配点は国語200、社会100、数学200、理科100、外国語200（大学入試センターの配点）による。

日程	前期			後期			B			C		
	日			日			日			日		
学部等	教育学部			教育学部			教育学部			教育学部		
	小学校教員養成課程			中学校教員養成課程			中学校教員養成課程			中学校教員養成課程		
	養護学校教員養成課程			国語科			国語科			国語科		
	幼稚園教員養成課程			英語科			英語科			英語科		
教科	文学部			経済学部			経済学部			経済学部		
	センター試験			個別学力検査			センター試験			個別学力検査		
	100			100			100			100		
	100			100			100			100		
国語	100			100			100			100		
社会	100			100			100			100		
数学	50			50			50			50		
理科	50			50			50			50		
外国語	100			100			100			100		
小論文												
実技												
計	400			400			400			400		
合計	800			800			800			800		

備考 3. 経営学部を志望する者は、大学入試センター試験の5教科を受験しておくこと。
4. 工学部（機械系）の大学入試センター試験の理科の配点は物理100点、化学又は理科180点とする。

身体に障害を有する者で、本学を志望する場合は、平成2年12月18日（火）までに志望する学部に応じ

平成3年度 神戸大学医療技術短期大学部
入学者選抜方法等

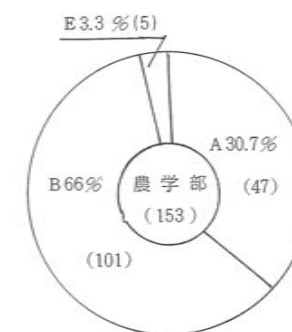
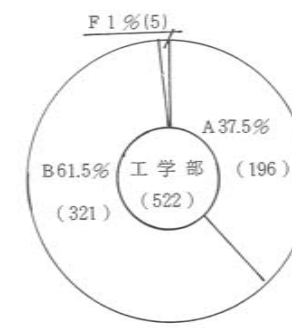
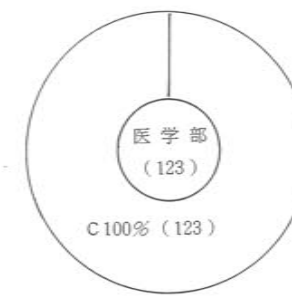
備考 出題科目欄の◎印は必須科目，○印は選択科目を示す。

— 24 —

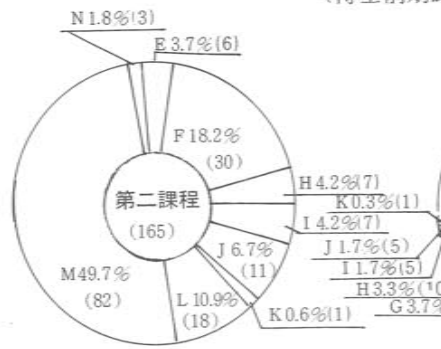
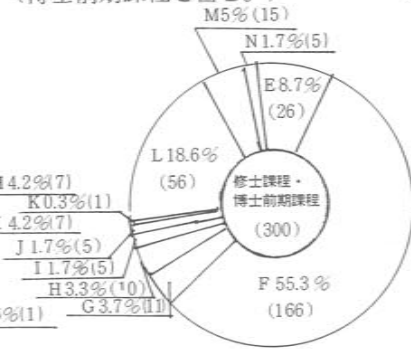
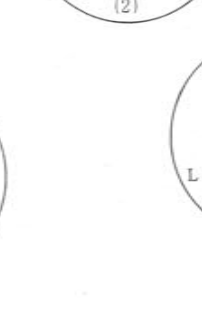
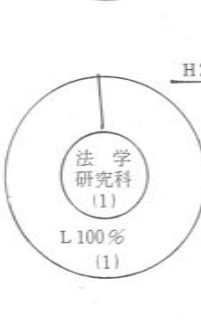
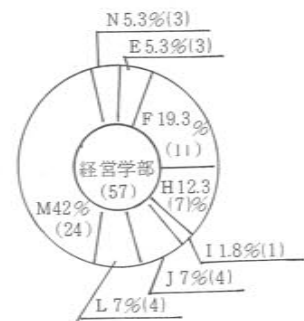
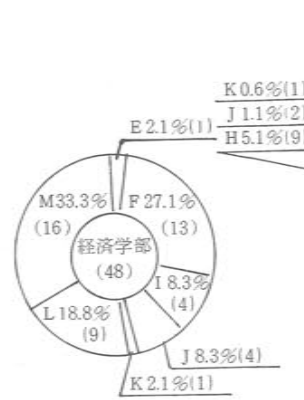
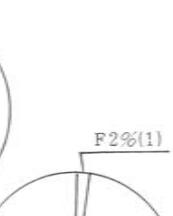
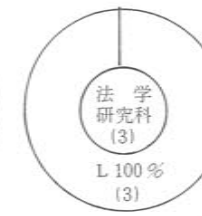
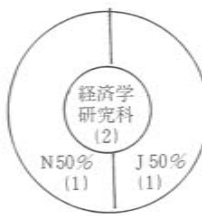
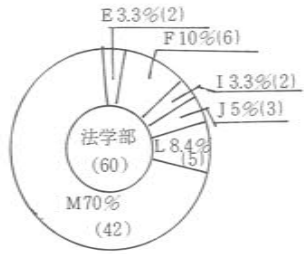
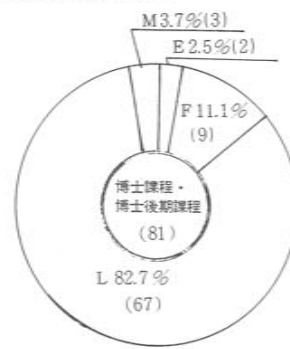
学部 (2,058)

学部	割合 (%)	人数
B	75%	1,542
A	16%	330
C	6%	123
E	2.7%	56
F	0.3%	17

グラフの中の()は人数を示す。
上記の区分は学校基本調査による。

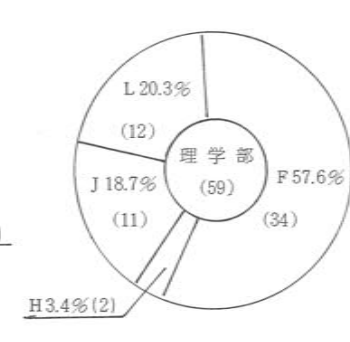
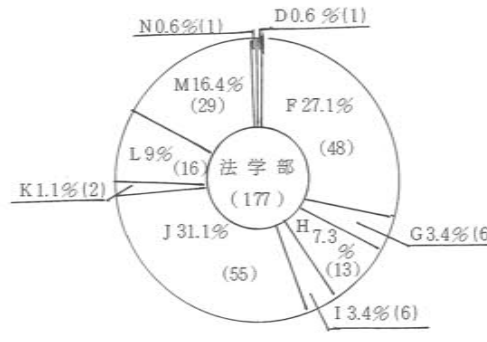
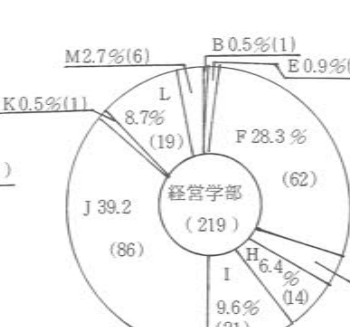
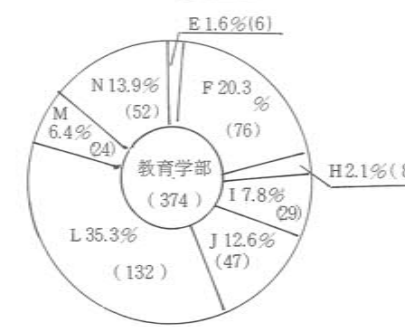
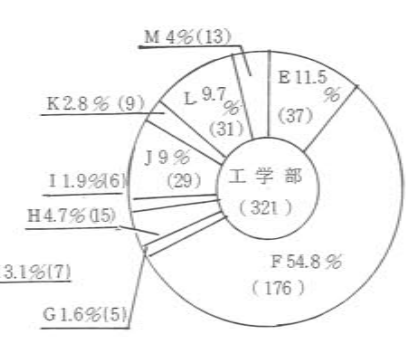
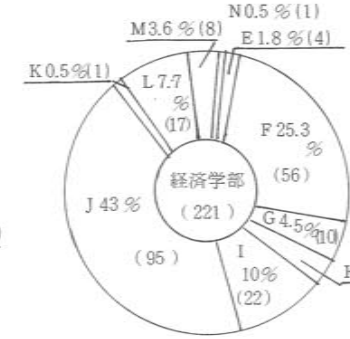
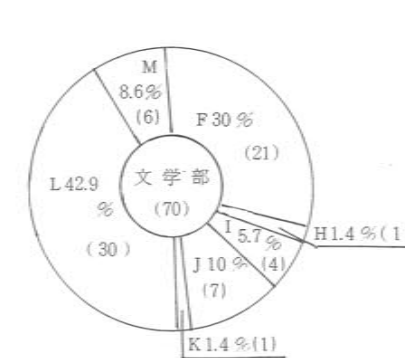
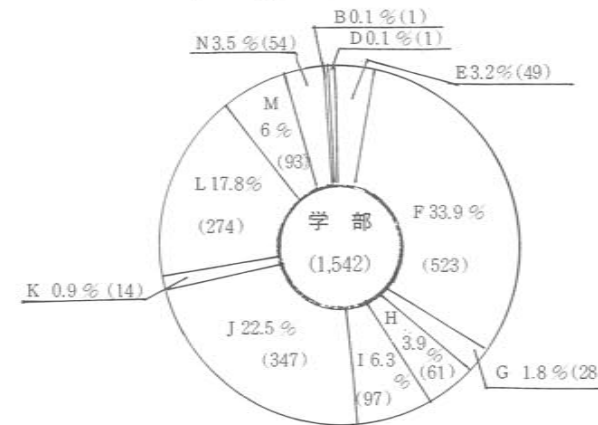


—第二課程—

—修士課程—
(博士前期課程を含む。)—博士課程—
(博士後期課程を含む。)

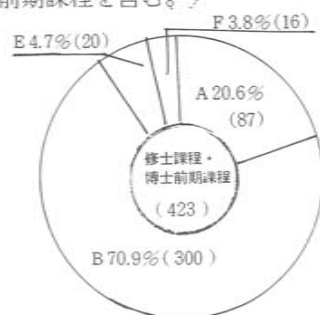
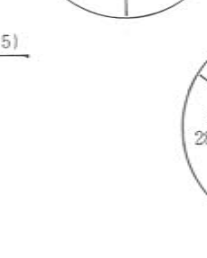
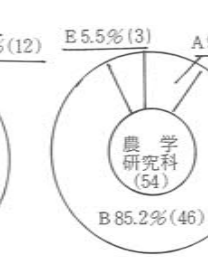
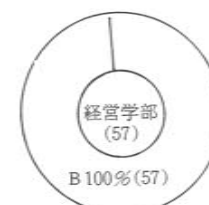
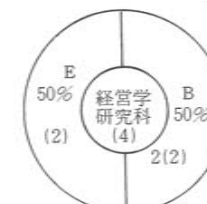
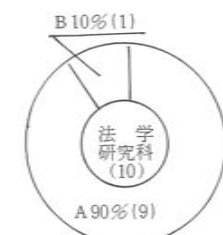
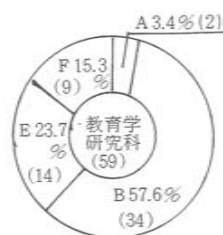
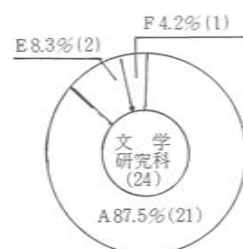
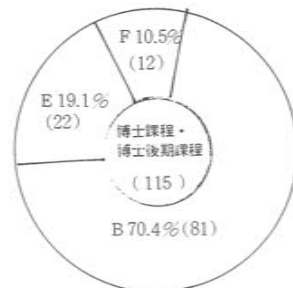
◇平成元年度神戸大学卒業者の就職状況調 (産業別)

—学部—



農	業	A
林	業	B
漁	業	C
鉱	業	D
建	設	E
製	造	F
電	気・ガス・	G
熱	供給・水道業	
運	輸・通信業	H
卸	売・小売業、飲食店	I
金	融・保険業	J
不	動	K
動	産	L
サ	ー	M
ビ	ス	
公	務	
そ	の	N
他		

—第二課程—

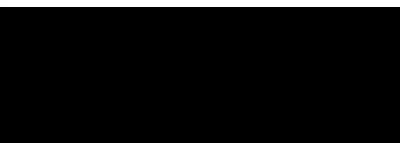
—修士課程—
(博士前期課程を含む。)—博士課程—
(博士後期課程を含む。)

掲 示 板

◇職員の住所変更等

・住所・住居表示変更

p.89, p.



日 誌

(平成2年月)

7月13日(金) 名誉教授・部局長懇談会

19日(木) 部局長会議

24日(火) 学位記授与式(経済学研究科,
医学研究科)

26日(木) 評議会

27日(金) 社会教育主事講習閉講式

◇訂正

学報 No	頁	誤	正
406	12	平成2年度人事院式 監督者研修(JST 標準課程)参加者 箕輪敬子	平成2年度人事院式 監督者研修(JST 標準課程)参加者 津田美津子



神戸大学50年史編集室だより

一歴史のひとこま一

前身校の歴史一兵庫県師範学校から官立兵庫師範学校へ一

それぞれ長い歴史と伝統そして独特の校風をもった兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校は、昭和8年12月の文部省告示第323号によって昭和11年3月31日限りで廃止され、4月1日から両師範学校は統合され新たに兵庫県師範学校が設置されることとなった。

事の起こりは、昭和6年の兵庫県市町村長会で当時の不況打開策の一つとして、両師範学校の統合促進を決議したことにある。統合の理由として指摘されたのは、第一に師範学校に対する県費の支出が多額であり、この経費を節減し、第二に教員が過剰状態であり、その数を抑制し、そして第三に両師範学校の学閥による弊害を根絶するということが両師範の統合によって果たされるものと考えられた。

しかしながら単なる一決議でもって両師範学校の統合がスムーズに実現するものではない。統合促進の動きに対抗して、一方では両師範学校の関係者や地元の人々による統合反対運動も起こってきた。

まづ最初に両師範学校長が、それぞれ統合に対する反対意見を新聞紙上に発表し、また姫路師範学校同窓会有志は「御影・姫路両師範学校合併の是非」と題するパンフレットを出して、教育的見地から統合問題を批判し、県当局や県会に反省を求めた。

その要点を簡単に見てみると、第一に師範学校卒業生は決して供給過剰ではなく、不況による教育志望者の多いのは一時的現象に過ぎない、第二に両校を合併してもそれほど経費の節減にならない。第三に一校の収容人員が多くなると学校の統制が乱れ、教育が不徹底になり、教員の資質を低下させる、第四に学閥の弊害よりも両校が並立することによって、切磋琢磨して教育界にとってはプラスの点が多いとされた。

このような猛烈な合併反対運動にもかかわらず昭和8年3月10日県議会は両師範学校統合案を可決したのである。新校舎は武庫郡住吉村赤塚山に設置されることとなったが、それが完成するのは昭和13年6月で、その間は御影・姫路の両校舎をそのまま仮校舎として充当し11年4月に開校した。開校後も両校の間にある溝は簡単には埋まらず、自由主義的空氣の強い御影師範の教師による清水新校長への反発や生徒間の対立も厳しいものがあった。

しかし時代は流れ、昭和16年には国民学校が発足し、かねて懸案であった師範学校制度の改革も実現し、18年4月1日勅令163号によって兵庫県師範学校は明石女子師範学校と合併し、修業年限3年の国立の専門学校である兵庫師範学校に昇格した。

国立への移管は教員養成を地方にまかさず、国家の手により直接行くと共に、戦時下の中央集権政策に沿うものであった。発足当時の兵庫師範は男子部、女子部を合わせて教官91名、生徒1880名という、我国でも有数の大師範学校であった。